

話題84 ティータイム(11)「健康長寿の島・沖縄を」 ～受動喫煙対策の強化を～

沖縄本島の北部、やんばるの空気は美味しい。羽地内海から古宇利島、東シナ海・太平洋へと広がる雄大な景色の中で深呼吸。生きていることを確認させる澄んだ空気が体の中に溶け込んでいく。

雄大な景色とはうらはらに、残忍な世相が、毎日のように映し出されていく。子供の虐待死。新幹線内での殺人。保険金殺人。人間の飽くなき欲望の追求は、生きることを意味をも忘れさせ、失わせてしまう。

個々の事件は、マスコミの報道でもって知ることができる。しかし、タバコの煙による危害は、目には見えない。国内において年間、約1万5千人もの命が「受動喫煙」によって失われているとのこと。戦争による「死」に匹敵する数値であるが、日常生活の中で取り上げられることは少ない。

国際オリンピック委員会(IOC)は、世界保健機関(WHO)との連携で、禁煙運動を展開し「タバコのないオリンピック」の実現を目指している。五輪開催都市は「屋内全面禁煙」が常識になっている。東京都の受動喫煙防止条例案は、五輪の精神を満たすものではないが、骨抜きの子の健康増進法改正案よりは実効性が高い。

国の施策に頼ってはおれない。観光立県沖縄は、さらなる一歩を踏み出すべきである。基本的には、ニコチン依存症は病気であるとの認識から出発し、健康教育をも担う保育園から小・中・高校、大学まで、教育機関はすべて敷地内全面禁煙とすべきである。さらに踏み込んで、飲食店は屋内禁煙とし、地域の主要道路は路上喫煙禁止区域とすることにより、日常生活の中での意識づけを行う。企業、職場も職員の健康管理にとどまらず、タバコの健康被害からも職員を守る責任がある。

加熱式タバコの正確な評価はなされてはいない。しかし、世界の加熱式タバコの販売量の大半を日本が占めており、まさに国民が人体実験の場として提供されている。多くの、多彩な弊害が予測されるが、結果が出てからでは遅い。タバコの害は肺がんだけではない。肺気腫、慢性に経過する呼吸器疾患は、自然の空気だけでは事足りず、常時、酸素の追加を要求する。

健康長寿の島・沖縄、平和な島・沖縄の実現には、タバコの煙と砲弾による煙から、沖縄の澄んだ空気を護る地道な行動が基本になるものと思われる。この島の、この美味しい空気が、健康長寿の島の再現となる。